

## ナショナル・トラスト活動と景観



中安 直子

### 1. 自然とは何か

---

- ・ 「自然」という言葉に対し、単に視覚的な「緑」として捉える人が多い。しかし、「自然」には多様性と地域特性がある。
- ・ 「見た目が美しいから」「管理がしやすいから」という理由で植えた植物が、自然破壊になることもある。
- ・ 「生態系(エコシステム)」という見方を導入することで、「自然」の仕組みが分かる。
- ・ 自然生態系は、自然界の5要素によって構成された自然のシステム。
  - ① 野生生物
  - ② 土壌
  - ③ 太陽エネルギー
  - ④ 水
  - ⑤ 大気
- ・ このうち、①野生生物と②土壌の集合体がつくる食物連鎖の様子を表したものが「生態系ピラミッド」



### 2. 自然の守り方

---

- ・ 土壌が重要  
生態系ピラミッドの底辺。自然生態系を守ることは、土壌を守ることから始まる。
- ・ 生物多様性の保全が重要  
自然が豊かであることは、それぞれの地域特性の中で生育・生息する生物が多様であるということ。
- ・ 土壌の確保とは、土地を確保すること  
行政による保護地域の指定、公有地化。民間によるトラスト活動。

### 3. ナショナル・トラストとは

---

- ・ ナショナル・トラストとは、国民と英国ナショナル・トラストの信頼関係のもと、英国ナショナル・トラストが国民から寄付を集め、国民のために美しい自然や歴史的な環境を永久に守り続ける取り組み。

- ・ 19 世紀の英国で、産業革命とともに急速に自然が失われるなか、3 人の市民（ハンター弁護士、ヒル女史、ローンズリー牧師）が立ち上がり「ナショナル・トラスト」を考案。1895 年に非営利法人「英国ナショナル・トラスト」が設立。
- ・ 設立後、100 年たった現在、英国ナショナル・トラストは英国で最大級の土地所有機関となる。会員数は 350 万人に。



#### 4. 日本でも広がるナショナル・トラスト

---

- ・ 自然や歴史的な建物を守る取り組みには様々な方法があるが、なかでも、市民や企業からの寄付を募ってそれらを買取り、将来に引き継いでいくナショナル・トラストは、野生生物やそのすみかなどを確実に守ることができる有効な方法である。
- ・ 1960 年代の高度経済成長期まっただ中の日本で、英国の取り組みを参考に、日本でもナショナル・トラストが始まった。市民による初めての土地取得事例は、古都・鎌倉 鶴岡八幡宮の裏山「御谷の森」(1964 年)
- ・ 現在では、50 以上の団体が、地域でそれぞれの風土に根ざした独自のナショナル・トラスト活動を展開。
- ・ 日本ナショナル・トラスト協会は、ナショナル・トラストを全国で推進する全国組織として、自らトラスト地の取得を進めるとともに、法律制定に向けた働きかけ、普及啓発、助成事業、企業との連携などを進めている。



公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会  
 〒171-0021  
 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル  
 TEL 03-5979-8031 / FAX 03-5979-8032  
 URL <http://www.ntrust.or.jp/> Email [office@ntrust.or.jp](mailto:office@ntrust.or.jp)